

世界ゴールド祭 キックオフ!

2017年 9.21(木)~24(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール ほか

熱い4日間を振り返る

この9月、来年開催される第一回「世界ゴールド祭」に向け、高齢者芸術に関するシンポジウム「世界ゴールド祭 キックオフ!」が彩の国さいたま芸術劇場で開催された。海を越えた英国から2つの劇場(団体)を招聘し、高齢社会において芸術文化がどのような役割を果たしうるか、海外の事例に学びながら可能性を探求。ワークショップも開催され、高齢者芸術を考える熱いやりが繰り返された。

取材・文●川添史子 Photo●宮川舞子

DAY 1 シンポジウム

- 事例1 | サドラーズ・ウェルズ劇場
- 事例2 | 彩の国さいたま芸術劇場

1日目のトップは、欧州随一のダンス専門劇場である英国「サドラーズ・ウェルズ劇場」。同劇場では「あらゆる人々の生活にダンスを」というビジョンで、さまざまな年齢や社会的バックグラウンドの人が「踊ってみたい」という気持ちを生かせる各種プログラムが組まれている。中でも60歳以上のダンサーで構成されている「カンパニー・オブ・エルダース」は1989年の設立以来、国内外に活躍の場を広げているとか。今回は、この革新的な高齢者ダンス・カンパニーから3人のダンサーも来日。参加する理由も、ダンス経験も、所属年数も違う彼らが、踊ることによっていかに人生が豊かになったかを語る生き生きとした表情が印象的だった。また同劇場では2014年から「エリクシール・フェスティバル」という、プロ・アマを問わず生涯踊り続けることに光を当てるダンスの祭典が開催されており、高齢者芸術の可能性が広がり続けていることを報告。同劇場の刺激的な試みに聴衆も熱心に耳を傾けていた。

この日は、平均年齢78歳の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」の軌跡と、昨年12月に行われた高齢者による大群集劇「1万人のゴールド・シアター2016」の創

作の様子など、彩の国さいたま芸術劇場の取り組みも紹介。一つひとつのプロジェクトを進めながら形を模索しているという、劇場の現状と、今後への意気込みを話した。またゴールド・シアターの最新作、『薄い桃色のかたまり』(作・演出は岩松了)がこの日開幕。多くの人がシンポジウムとあわせて観劇した。

DAY 2 シンポジウム&ワークショップ

- 事例3 | エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場
- ラウンド・トーク

2日目は、参加型アートプロジェクトを展開する「エンテレキー・アーツ」と、その拠点劇場「オールバニー劇場」が、地域、行政、医療セクターといった組織も巻き込んだ先進的な活動をレポート。孤立した虚弱な高齢者のニーズに焦点をあてたアーツ・クラブ「ミート・ミー・アット・ザ・オールバニー」や、老人たちの隠された物語をあぶり出すプロジェクトなど、その内容は多様に富み、なんとも興味深かった。ロンドン南東の地域社会にしっかりと根付いて、長期的な病気や障害を抱える人々、社会から疎外されかねない高齢の住民をつなぐ独自の手法を持つエンテレキー・アーツの活動は、超高齢社会

に突き進む日本にも多くの示唆を与えてくれる。早くから高齢者アートに取り組んできた英国の歴史、経験の豊富さを感じさせるシンポジウムで、客席からの質問がいつまでも続いたのも印象的だった。

シンポジウム後は、「カンパニー・オブ・エルダース」のワークショップが開催される、大練習室へ移動。誰でも無理なく参加できるようなゆるやかな動きの中に、ダンスの楽しさ、動きを発見する喜びが詰まった1時間! 参加者30名はもちろん、見学者も自然に身体が動いてしまうような幸福感ある時間であった。

2日目の最後はラウンド・トークが開催され、シンポジウムに登壇した各劇場・団体のディレクターをパネリストに迎え、「高齢社会に輝きをもたらす、これからの劇場の在り方を考える」をテーマに語り合った。高齢者アートに携わるようになったきっかけ、高齢者と向き合う意義、社会的な意味合い、地域の人たちの関心と呼ぶ方法などなど……。限られた時間の中で多

くの意見が交わされ、お互いに学ぶ大切さを確認した。この日の最後に催されたレセプションでは、参加者同士が自由に意見交換、情報共有を行い、熱い2日目笑顔の中で終わった。

DAY 3&4 ワークショップ

3・4日目は前日から引き続き「カンパニー・オブ・エルダース」のワークショップが開催され、60歳以上の約60名の参加者がダンスに汗をかいた。参加者の半数以上が初めてダンスに挑戦したが、皆とまどうことなく、思いっきり、表現する喜びに満ちた表情を見せてくれた。

*

こうして全4日間、高齢者芸術をめぐる熱いシンポジウム&ワークショップは閉幕。先進国の中でも最も速いスピードで高齢化が進む日本が、アートで輝く未来を想像できるような、手応えあるキックオフになったのではないだろうか。



サドラーズ・ウェルズ劇場&カンパニー・オブ・エルダース

写真左から ジョス・ジャイルズ(ラーニング&エンゲージメント部門 ディレクター)
ルーシー・クラーク(ラーニング&エンゲージメント部門 プロジェクト・プロデューサー)
カンパニー・オブ・エルダースのメンバーたち(ベツィ・フィールド、カトリオーナ・マコル、クリス・ハヴェル)
シモーナ・スコット(カンパニー・オブ・エルダース リハーサル・ディレクター)



ラウンド・トーク

座長を務めた太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター長/主席研究員)



写真左から ノゾエ征爾(「1万人のゴールド・シアター2016」脚本・演出/脚本家・演出家・俳優・劇団「はえぎわ」主宰)
「1万人のゴールド・シアター2016」出演者(米山睦子、田野勝彦)



エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場

写真左から デービッド・スレイター(エンテレキー・アーツ芸術監督)
ギャビン・バーロウ(オールバニー劇場 チーフ・エグゼクティブ兼芸術監督)



シモーナ・スコットの指導で60歳以上の男女がダンスに挑戦。カンパニー・オブ・エルダースのメンバーとの質疑応答も。

